

を祈ってやみません。

ロシアで受けた政治教育

岐阜県 梶田利男

昭和二十(一九四五)年五月、満州黒河山神府九八四輜重隊に入隊。七月にチチハル挺身大隊に転属。八月、ハルビンで終戦、武装解除を受けて、十月に貨車に積み込まれて入ソ。十一月、タイセット地区カस्ताマール収容所へ入る。作業は伐採であった。

二十一年、イルクーツクにてソフホーズ農作業。

二十二年、グリシオにてブロック製造作業。

二十三年、チェレンホーポーにて炭坑作業。

食糧はエンバク、小豆、黒パン、ニンジン等満足にはほど遠い、量質ともに最低であった。

イルクーツク政治学校へ六カ月入校し、政治教育を受けた。日本人の共産党員が、マルクスから始めて、日本の旧体制打破を熱心にアジっていた。若い僕

達は、そんなものかなあと思った程度で、特に影響はなかった。あれもこれも、日本へ帰るための儀式だと割り切って行動をした。

このように現地で政治教育を受けた者がたくさんおられます。そのほとんどの人達が、帰国後半月くらいですべてを洗い流してしまっていると思います。

昭和二十四年九月、ナホトカより乗船、舞鶴上陸、復員。

食事は馬糧の

大豆、コウリヤン、

豆かすであった

岐阜県 古田 強

昭和十九(一九四四)年九月一日、名古屋第一三部隊入隊。九月四日、下関港より出港。九月十五日、満州第二六三部隊入隊。

昭和二十年三月一日、満州第二六三六部隊配属。八